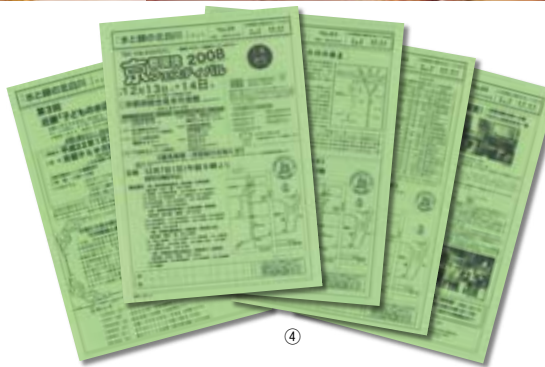




③



②



④



①

- ①「身近な川の生物調査」参加の子どもたち
②学区民あがて「琵琶湖疏水第一分線」の一斉清掃
③北川上流で生きもの調べ
④会報「水と緑の北白川」日より



●BYスタンプラリー・協賛グループ紹介 白川源流と疏水を美しくする会

豊かな自然を次代につなぐ

現場主義「モットー」に地域の自然環境を守る

■今回は会長の村松光男さんにお話をうかがいました。

「白川源流と疏水を美しくする会」が発足したのは昭和58

年12月のこと。昭和30年から40年代にかけて進んだ高度成長の影響を受けていた身近な自然環境を、地域に暮らす人たちが守ろうという思いから活動がスタートしました。

当初は同好会的なメンバーの集まりだったため、活動に対する考え方にも温度差があり、年間の活動というものがほとんどない状態でした。そこで、平成12年に北白川学区全38町から委員を選出し、本部役員含めて総勢58人で年間を通して組織的に活動できる体制を整えました。

現在は北白川学区を流れる琵琶湖疏水の第二疏水分線と北川上流域の一部を活動のフィールドとして、年4回の住民一斉

清掃や週に2回のパトロール活動が続けています。これらの取り組みをまとめた会報「水と緑の北白川」も学区内の各戸に配布されています。「組織として活動する以上、私たちが何をしているかを地域の人へ情報発信していくことも必要です。こうしたきめ細かい情報発信により、清掃に参加する人が増え、環境整備に対する前向きな意見も聞こえてくるようになりました」と、その成果に目を細めます。

清掃活動の他には小学生を対象とした「身近な川の生物調査」も平成15年から始めています。生き物観察をはじめ、水質調査や川の清掃など、川や水の大切さを学ぶ機会として学校からの開催依頼も多いとか。「参加するまで生き物ひとつ触れな

かった子どもたちでも、一度川に入って生き物に触れば、忘れられない思い出になる。それが自然に対する思いにつながるんです。それは大きいですよ」。

平成21年秋には、会の優れた社会奉仕活動が評価され、緑綬褒章も受章されました。

「まだまだやりたいことはたくさんあるけど、人員的に無理な部分もたくさんあります。活動の幅を広げることよりも、現場主義をモットーに、従来の活動を充実させることに力を注ぎたい」と力強く語ってくれました。



白川源流と疏水を美しくする会
村松光男さん



BYスタンプラリーとは、水質改善活動に取り組んでいる協賛グループの活動に参加してスタンプを集め、記念品をもらう新しいタイプのスタンプラリーです。これまで2,635人の方がご応募くださいました。また協賛グループは、58の市民団体と20の水関連施設で構成されています。(平成22年2月末現在)